

財団概要

名称	公益財団法人 永富薬学奨学財団
所在地	〒870-0952 大分県大分市下郡北1-4-45
事業内容	薬学生に対する奨学金の給付

奨学生募集について

特長

- 奨学金は給付型とし、返還の義務はありません
- 他の奨学金との併給は原則として認めません
(但し、日本学生支援機構の奨学金並びに応募者の在学大学が独自に設けている奨学金は除きます)

応募資格

以下の各項目にいずれも該当する者

- 保護者説明会に参加していること
- 大分県出身者で大分県に戸籍を置くものであること
- 日本国内の大学の薬学部 に在学し、5年生あるいは6年生であること
- 薬剤師国家試験合格後、大分県内所在の薬局に3年間勤務すること
- 学業優秀、品行方正ながら、経済的支援を必要とする学生

募集人数・給付金額・給付期間

	5年生	6年生
募集人数	約10名	約5名
給付金額	月額5万円	月額10万円
給付期間	2026年4月から2027年3月まで	2026年4月から2027年3月まで

応募方法

財団ホームページからご確認ください

<https://nagatomi-zaidan.or.jp/>



選考方法

当財団の奨学生選考審査会で、小論文試験、面接を基に総合的に選考を行います。

※この奨学生募集に係って提出いただく個人情報については、奨学生の選考及び選考後の連絡以外には一切使用いたしません

給付までの流れ

1.保護者説明会 (受給希望者は必ず参加)

2026年3月1日(日) 13:00～
レンブラントホテル大分

2.募集受付および書類提出

受付 2026年4月10日より
2026年5月20日(必着)

各種提出書類を当財団宛に郵送してください

3.面接・小論文

2026年6月6日(土) 13:00～

- ・選考の結果(可否)を郵送でお知らせします
- ・通知期間は2026年6月18日～6月25日です

4.採用者の手続き

2026年7月7日(火)(必着)

- ・採用者は、振込先金融機関口座情報・誓約書兼保証書等を記入して、当財団に郵送してください

5.奨学金の給付

2026年7月24日(予定)

- ・7月24日に、4か月分(4月・5月・6月・7月)の奨学金を給付いたします
- それ以後は、毎月25日までに当月分の奨学金を給付いたします

返済不要

給付型

奨学生募集

2026年度
募集

大分の地から

薬剤師を目指す

あなたに。



保護者説明会のお知らせ

2026年3月1日(日) 13:00～14:00

場所 レンブラントホテル大分2階 久住の間(大分市田室町9番20号) 期限 2026年2月25日必着

申込 「奨学金保護者説明会申込書」に必要事項を記入の上、下記財団事務局まで郵送

奨学金保護者説明会は、本奨学金を希望されている保護者に、本財団の目的・概要等をご理解いただくことを目的として開催します。受給を希望される方はこの説明会の参加が必要となりますのでご参加ください。

お問い合わせ

TEL.097-547-8710 受付時間 午前9時～午後5時(土日・祝日を除く)

✉ zaidan@nagatomi.co.jp WEBはコチラ 永富薬学奨学財団



公益財団法人

永富薬学奨学財団

〒870-0952 大分県大分市下郡北1-4-45

給付型奨学金による支援



給付型奨学金
返済不要



給付対象
薬学部5・6年生



5年生給付金額
月額5万円
(年額60万円)

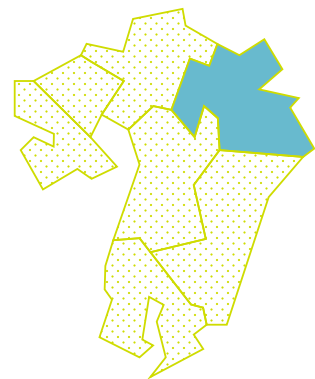


6年生給付金額
月額10万円
(年額120万円)



公益財団法人 永富薬学奨学財団

Nagatomi Pharmacy Scholarship Foundation



大分の薬学業界の未来を創る

CREATIVE THE FUTURE

これからの薬剤師には、厚生労働省による「患者のための薬局ビジョン」で示されたように、地域に密着した医療の担い手として多岐にわたる機能・役割が求められています。2006年に薬学部は4年制から6年制に変更され、新設の薬学部、薬科大学が急増しました。薬剤師不足に対する厚生労働省の施策により増加傾向にあるものの、一部の都市では充足傾向にあるといわれている反面、地方では人材不足が今なお続いています。なかでも、薬学部の無い県では薬剤師の確保が難しい現状は変わってはいません。薬学部がない県の出身者が薬剤師を目指す場合、進学のために県外の大学へ進学せざるを得ず、学費の他にも生活費などの経済的負担は大きく、加えて、卒業後は故郷には

帰らず、そのまま県外で就職する例も少なくありません。薬学部の無い大分県においては、地域に根差した薬剤師の充実が業界全体の喫緊の課題でもありました。そのような状況の中、2020年4月に大分県出身の薬学部在籍する5年生、6年生に対して奨学金を給付して支援する「公益財団法人永富薬学奨学財団」が創設されました。原則として還付義務のない給付型奨学金で、奨学生は薬剤師国家試験に合格後、大分県内の薬局に3年間勤務することを条件としています。この奨学金制度により、継続的な人材育成の支援ができ優秀な人材が大分県に戻ってくることを期待しています。さらには薬局業界や地域医療の充実に貢献できると信じて、今後もこの事業を継続していきたいと思っています。

設立者ごあいさつ

大分県出身の優秀な人材に、大分県の薬局薬剤師として活躍する道を選んでいただきたい。そのために薬学部在学中の経済的負担を軽減し、安心して学業に専念できる環境づくりに少しでもお役に立つことが出来ればという想いから「公益財団法人永富薬学奨学財団」を設立し、奨学金支給という形で支援を行うことにいたしました。これを機会に、大分県に薬剤師が満たされ、地域医療の充実化に貢献できることを目指します。



理事長 永富 茂

ここが魅力!

POINT

- 1 勤務先は大分県内の薬局
- 2 給付型なので返済不要
- 3 交流会などフォロー体制も充実

奨学生 研修会・交流会 REPORT

奨学生
研修会



毎年、秋期研修会と春期研修会の2回実施(主な研修内容は個人面談と講演会)

OBOG
交流会



OBOGの薬剤師、諸先輩の方々から、現場の生の声を聞ける貴重な時間(毎年夏に開催)

保護者
説明会



次年度奨学生募集に向けてのファーストステップ(毎年、年度末に実施)

教えてセンパイ!

★★★

奨学金制度を活用し、薬剤師として活躍する先輩たちの声をお届けします。

QUESTIONS

Q1

永富薬学奨学財団を知ったきっかけは?



第一期生
T.Sさん (29歳)
大分市内調剤薬局勤務

A1

就職活動中、大分市の薬局見学に行った際に当財団が設立されたことを知り、応募しました。

A2

国家試験に向けて勉強したい時期にアルバイトをせず、学業に集中できました。薬剤師になってからも返済はなく、奨学生OB/OG交流会で他の薬局の人と話す機会があり刺激になっています。

A3

私が働く大分市は在宅クリニックも多く、地域密着型の薬局として在宅医療に関わることができ、やりがいを感じる場面が多々あるところです。

Q2

実際に奨学金制度を利用してみていかがでしたか?



第二期生
T.Iさん (28歳)
佐伯市内調剤薬局勤務

A1

当財団が新聞に掲載されたのを見た父から「大分に帰ってくるのであれば良い話ではないか」と聞き、知りました。

A2

大学生の時は生活費などでお金がかかるので本当に助かりました。勉強に励む際にお金の心配をするストレスが軽減され、心身ともに健康でいられたことが良かったです。

A3

医療関係者だけでなく、地域の方々との交流が多く、情報を得られることがよかったと感じます。今後も大分県の薬剤師として、地元の力になればと感じます。

Q3

大分県内の薬局薬剤師になってよかったことは?



第三期生
K.Kさん (28歳)
別府市内調剤薬局勤務

A1

大分県での就職活動中、インターンシップに参加した際にいただいたパンフレットで知りました。

A2

アルバイトの時間を大幅に減らすことができ、研究と勉強に集中することができました。また大分県にも自分を応援してくださる方々がいるということが励みになりました。

A3

これまでお世話になった地域の皆様に薬を通じて恩返しができることです。地元ならではの話題を通して距離が縮まったり、患者様との信頼関係を築きやすいと感じます。

奨学生出身大学一覧 (五十音順)

- 岐阜薬科大学 ●九州医療科学大学 ●熊本大学 ●富山大学
- 長崎国際大学 ●広島国際大学 ●福岡大学 ●武蔵野大学